

東京 IPO 特別コラム

2019年2月21日 Vol.141

2019年IPO相場への期待

いよいよ22日から2019年IPO銘柄の取引がスタートする。第1号銘柄は独自のノウハウで経営コンサルティングや研修ビジネスを展開する識学（7049・公開価格1800円・公開時時価総額43.9億円）で放出額は5.9億円。第1号ということもあり比較的好需給で関心は高そう。これに続いて2月は26日のリックソフト（4429・同4000円・同82.5億円）、27日の東海ソフト（4430・同1500円・同33.7億円）、28日のフロンティアインターナショナル（7050・同2410円・同104.9億円）、スマレジ（4431・同1370円・同124.1億円）と続く予定だ。

多くの投資家は既に東京IPOサイトなどの情報を参考に、各銘柄の評価をなさっているのかも知れないが、既存銘柄の評価とは異なりIPO銘柄の場合は需給（発行済み株式数に対する放出株数の割合や絶対的な放出株数など）と直近までの業績の推移がポイントになると考えられる。昨年の12月はソフトバンク株の公開初値が公開価格割れを演じた結果、一時的にせよ需給が悪化。年明けもサンバイオショックなどのショック安が続く中、その余韻をまだ残したままの2019年IPO相場の開始であり、固唾を呑んで見守ることにしたい。

また、既に3月のIPO銘柄も2月20日現在で11銘柄が承認されており、公開価格の決定を待つ段階にある。2月の5銘柄と合わせて、これら16銘柄の事業内容を見るとややユニークさに欠ける点は気になるところだが、それぞれにサイトなどのチェックを行うと事業への熱い思いが感じられる。既存の上場銘柄と同じようなビジネスをやっているとすれば評価はやや落ちてしまうが、IPOする以上は中長期視点での成長は必須の目標となり、それを課題として成長指向を表明している企業にこそ高い評価を与えたいと筆者は考える。直近の業績推移や事業アイテム、ビジネスモデルなどの評価ポイントや企業の生い立ち、経営者の経歴、時価総額と現状までの業績、四半期ベースで公開されている今期業績の進捗などを参考にしながらリスクテイクを図る投資家の皆様に高い運用成果がもたらされることを祈願したい。

2月の5銘柄の中では識学のほか、リックソフト、スマレジあたりが初値から大きく人気化が予想されるが、IT系とは言え公開時の時価総額が34億円に留まった東海ソフトも中長期的な視点では比較的回収を上げられるものと期待される。3月の11銘柄の中ではアマゾンに関連した13日のサーバーワークス（4434）、クラウド人材マネジメントシステム「カオナビ」を提供する15日のカオナビ（4435）などITサービス系銘柄の活躍が期待されるほか、19日の金融情報メディア「みんなの株式」を展開するミンカブ・ジ・インフォノイド（4436）、建設業界特化人材派遣事業を展開し業績向上中のコプロ・ホールディングス（7059）などにも期待が寄せられる。

（東京IPOコラムニスト 松尾範久）